

# モバイルブロードバンドの発展と 計測ビジネス ～LTEへの取り組み～

2010年7月29日

アンリツ株式会社  
代表取締役 専務執行役員  
計測事業グループプレジデント  
田中 健二

東証第1部:6754

<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/>

Discover What's Possible™

Copyright© 2010 Anritsu Corporation. All rights reserved

Anritsu

1

4月に発表いたしました中期経営計画 GLP2012でも申し上げましたが、LTEはアンリツにとって成長ドライバーです。このQ1の営業利益もLTEの開発用計測器の売上が原動力となりました。本日はこのLTE関連ビジネスについて、その背景を含めた全体像に言及しながら説明させていただきます。

## 注 記

---

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的  
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を  
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関  
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能  
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、  
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お  
きください。

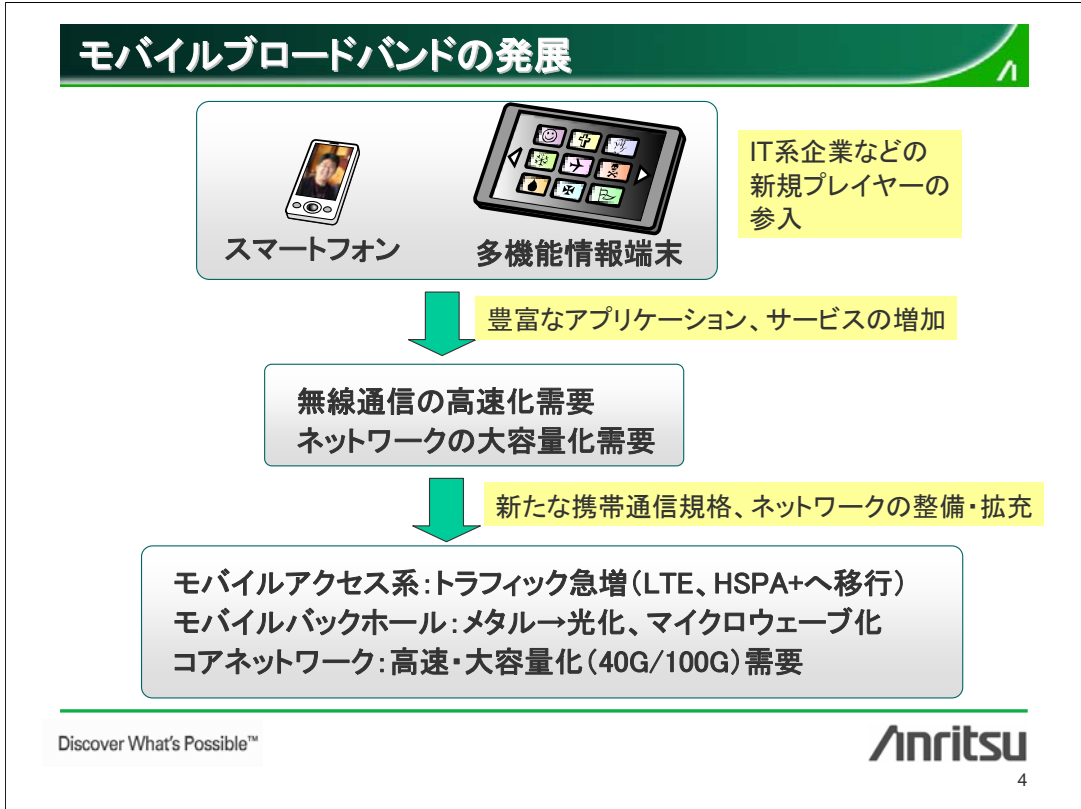
実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、  
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や  
競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引  
き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど  
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、  
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、  
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

## 目次

---

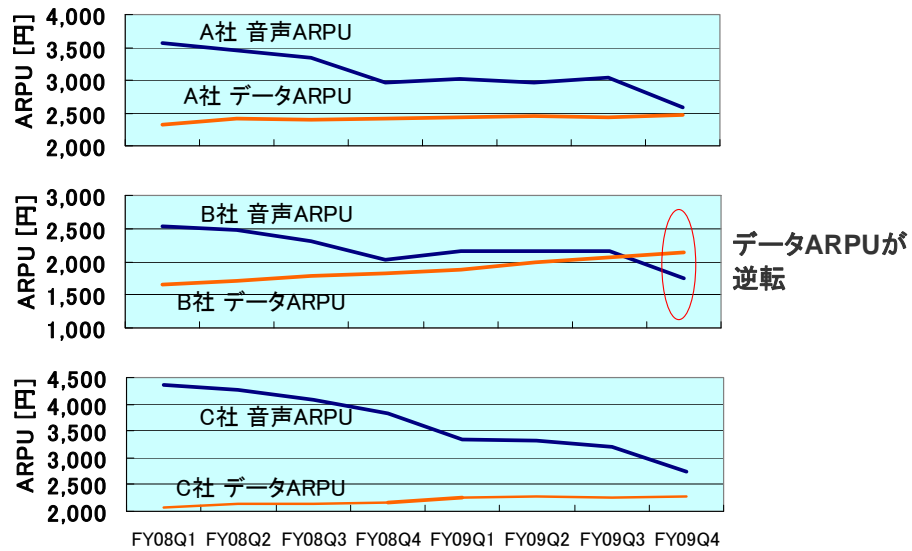
- モバイルブロードバンドの発展とアンリツのビジネス
- LTEへの取り組み
- 具体的な成果と今後の展開
- Appendix



**スマートフォンやipadなどの多機能情報端末の普及により、データトラフィックが急速に拡大**

豊富なアプリケーションやサービス、魅力的なコンテンツを提供するスマートフォンやiPadが高い成長率で注目を集めています。これらの情報端末はユーザのネットワーク利用を増大させています。ユーザはこれらの端末がスムーズに稼動することを期待しており、これを実現に結びつく手段の一つが、LTEというモバイルアクセス技術なわけですが、実は、実際にスムーズな端末の利用にはこのモバイルアクセスの後につながるモバイルバックホール、および、コアネットワークが高速化して初めて実現します。

## 音声ARPU/データARPUの推移



注)ARPU:加入者一人あたりの月額売上高

通信事業者各社の開示資料より

Discover What's Possible™

Anritsu

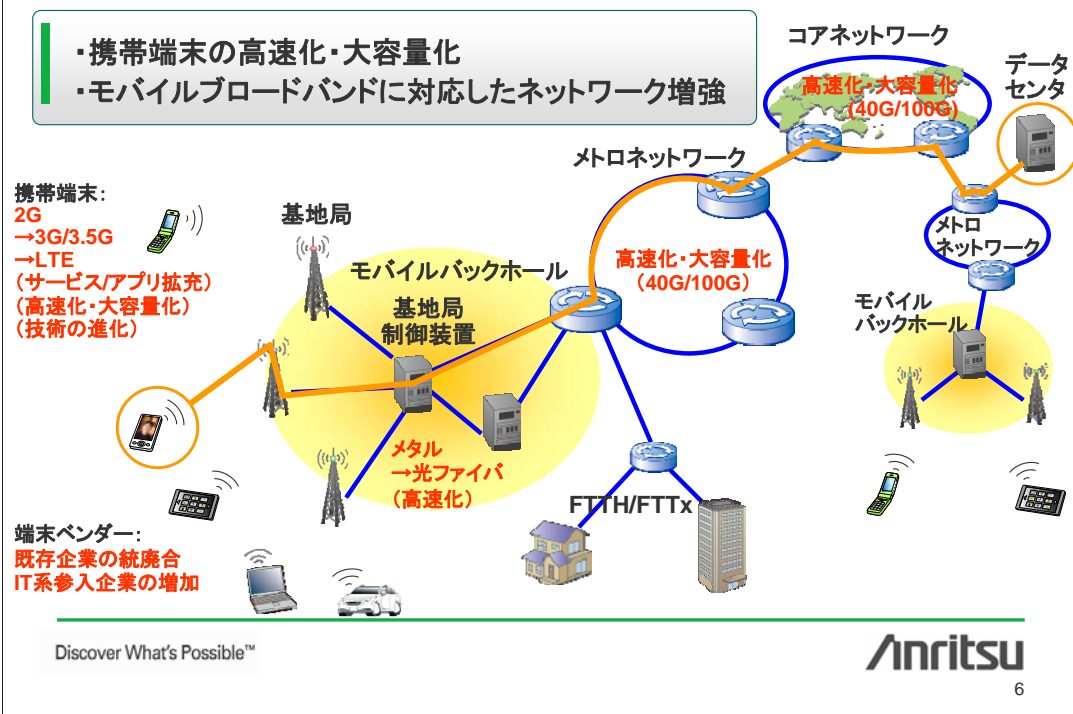
5

## データARPUが音声ARPUを上回る

実際に、音声とデータのトラフィックを比較すると、データトラフィックが急激に増加しています。ここ数年は、モバイルのデータトラフィックは毎年2倍以上の増加率となっています。

事実、データのARPUが音声を上回る例が先進的な通信事業者において見受けられるようになりました。

## サービスやアプリケーションの普及を支えるネットワーク・インフラ

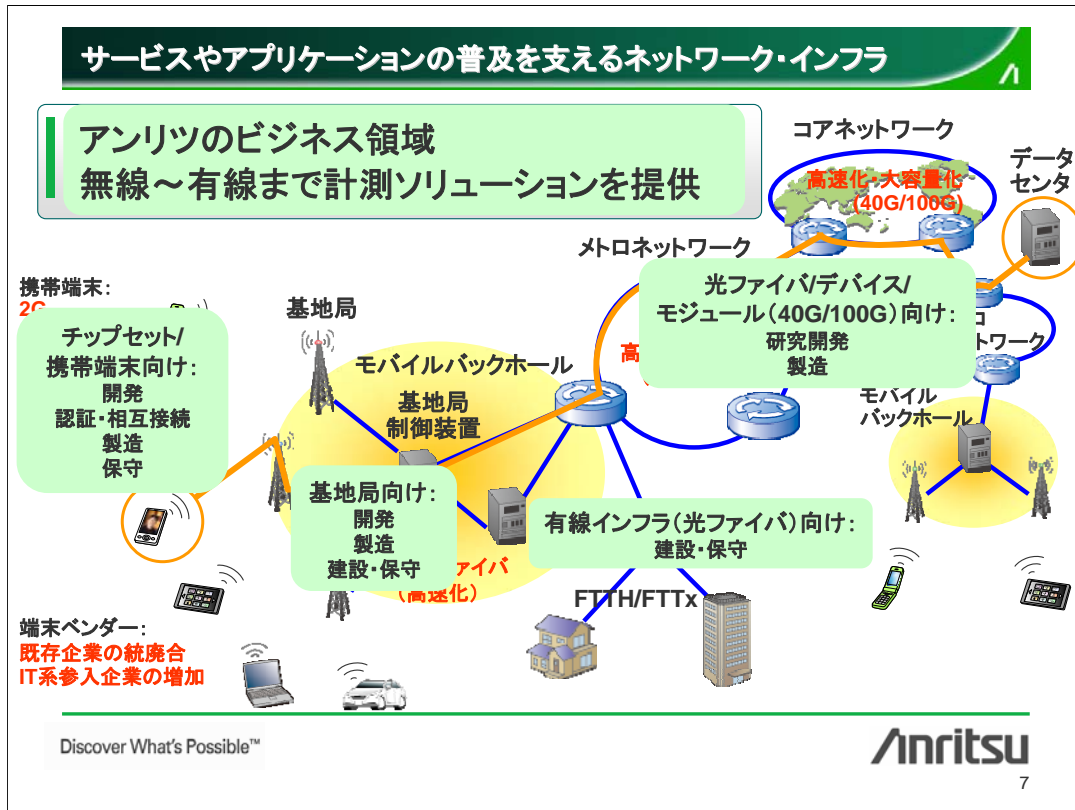


実際のアプリケーションは、端末から相手の端末へのスムーズなデータの流れて実現

スムーズなデータの流れるために、

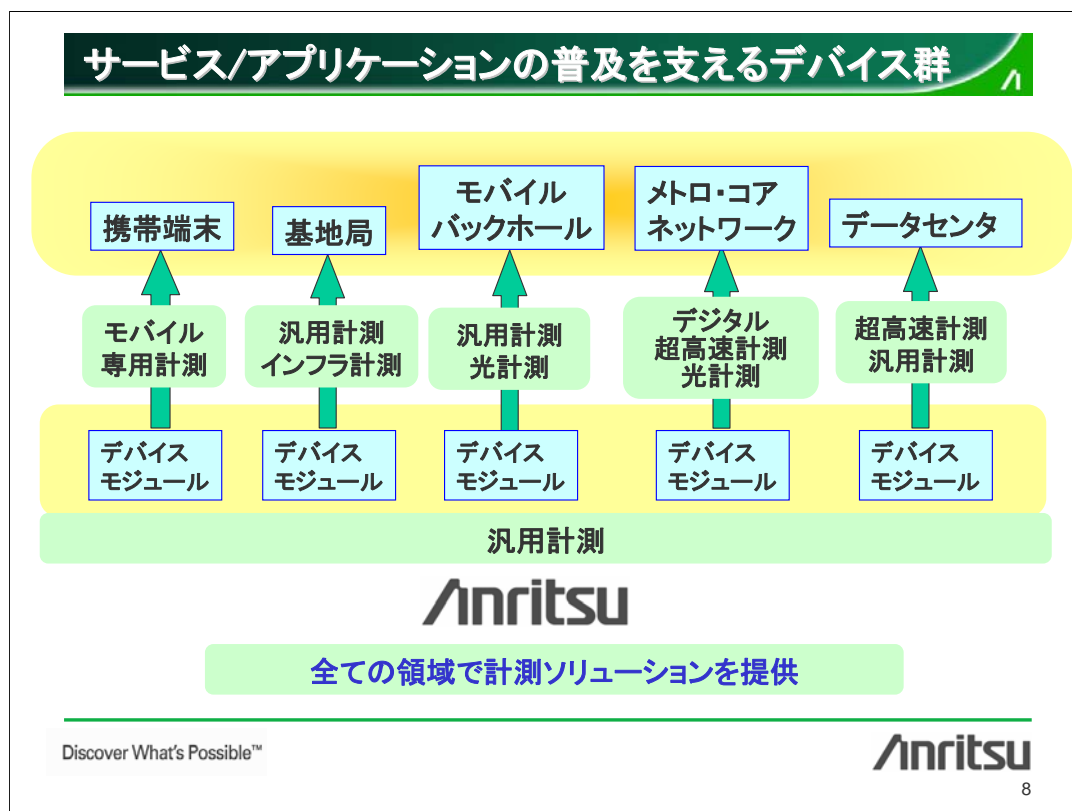
モバイルバックホールは、銅線から光ファイバへと切り替えが進み、高速化されていきます。

さらに、メトロネットワーク、コアネットワークでは、40G/100Gの高速大容量通信が進展していくと考えています。



**無線～有線まで計測ソリューションを提供**

アンリツは、携帯端末-基地局-モバイルバックホール-メトロ/コアネットワークに至るまで、全ての領域において開発・製造・建設・保守まで計測ソリューションを提供可能です。



それぞれのパスごとに、開発、製造、保守といった計測需要が存在

サービスやアプリケーションの普及を支えるためには、機器やデバイスの高機能化や高速化が必要です。それらを実現するためには、機器やデバイス向けの開発、製造、保守といった計測需要が必要です。

アンリツはLTEチップセット開発用計測器はもちろんのこと、サービスの高機能化をサポートするさまざまなデバイス用の計測ソリューションを提供しています。



## LTEへのアンリツの取り組み

1. チップセットベンダー、携帯端末ベンダーとの良好な関係を維持し、常に先行して開発用/認証用計測ソリューションを提供する。
2. リーディングオペレータへ相互接続試験を提供し、端末ベンダーへの展開を図る。
3. スマートフォンなどの新規参入企業の顧客サポート体制を強化し、ビジネス拡大を目指す。

Discover What's Possible™

Anritsu

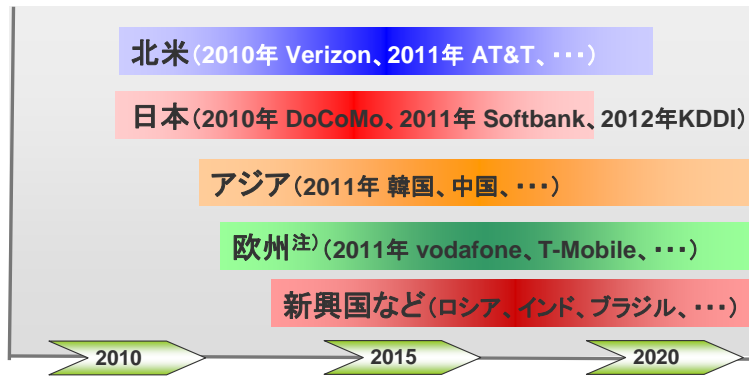
9

### リーディングポジションの継続と安定ビジネスの実現

通信事業者やチップセットベンダーで認証試験や相互接続試験計測ソリューションを採用いただくことにより、ダウンストリームのベンダーへビジネス展開していきます。

## ネットワークの広がり と 計測ビジネス

LTE商用化の表明：80通信事業者(33カ国)  
導入時期と普及のスピード：各国/各通信事業者によりまちまち  
⇒ネットワークインフラ用計測を中心に長期にわたるビジネス



注) 2009年にTeliaSoneraが欧州の一部で商用化

Discover What's Possible™

Anritsu

10

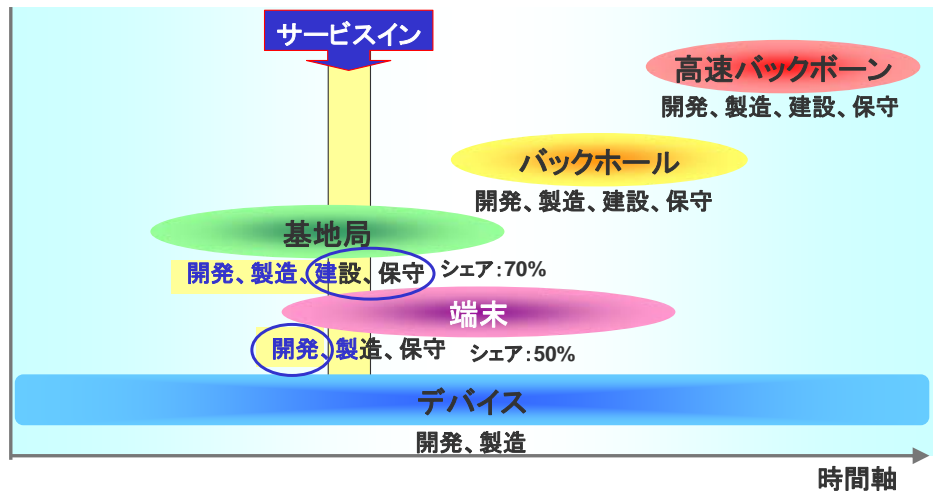
### 80通信事業者がLTEの導入を表明

LTE関連ビジネスの時間的展開について補足説明します。

LTEの商用化については、アメリカのベライゾン様と日本のドコモ様が先行している状況であり、今年の年末にはサービスインを計画しています。その後、アジア、欧州、新興国へと展開していくものと思われます。

## 計測市場の展開

デバイス～端末/基地局～モバイルバックホール～コアネットワークまで  
⇒裾野が広くかつ長期にわたるビジネス



Discover What's Possible™

Anritsu

11

### 端末、機器、ネットワークの需要時期は時間差がある

サービスイン時期を基点とした機器やネットワークの需要時期を紹介いたします。これに応じて、機器やネットワークの開発・製造・建設・保守などの計測需要が出てきます。

## LTEの広がりと計測ビジネス

サービス、アプリケーションの増大  
⇒サービス、アプリケーションの品質を確保するためのソリューション需要

### 認証試験(コンフォーマンステスト)

端末と基地局の通信手段に対する共通規格への適合性を試験  
→ チップセットから端末まで適合性の確認が求められる

### 相互接続試験(インターオペラビリティテスト)

通信事業者特有のサービスを含めて、その接続性を試験  
→通信事業者ごとに試験が必要であり、端末は適合が求められる

Discover What's Possible™

Anritsu

12

## サービス、アプリケーションの品質を確保するソリューション

サービスインのためには、認証試験コンフォーマンステストだけではなく、オペレータごとの相互接続試験インターオペラビリティテストが必要となります。

スマートフォンやipad、のみならずいろいろな新たなアプリケーションの出現により、継続需要が見込まれます。

## アンリツの強み

### 【実績】

1. W-CDMA向け計測ソリューションにおいて、
  - ・世界初の計測ソリューションを提供
  - ・リーディングカスタマーとの堅固な関係
  - ・高い技術力、サポート力
2. 無線～有線まで、計測ソリューションを保有

Discover What's Possible™

Anritsu

13

### アンリツの強み、お客様とのソリューション提供の実績

アンリツはW-CDMAにおいて世界初の計測ソリューションを提供しました。その後世界のリーディングカスタマーとの堅固なお付き合いから、アンリツの技術力とサポート力について高く評価いただいています。

## アンリツの具体的な成果と今後の展開

項目	成果	時期	今後の展開
日本 NTT DoCoMo及び国内端末ベンダー向けソリューション	チップセット開発用計測のビジネスを独占的に獲得	2009年3月期 2010年3月期	個別端末開発用計測器や認証・相互接続試験等へのビジネス拡大
韓国 LGとの協力関係「Mobile World Congress」(スペイン)	LG社のLTE USBモデムの測定デモンストレーションを実施	2010年2月	LG社との関係を強化し、ビジネス拡大
アメリカ Verizon Wireless 向けソリューション	基地局建設保守用計測器としてアンリツのBTSマスターを選定	2010年3月	基地局建設保守用のデファクト計測による安定ビジネスの拡大
RF/プロトコルの認証システム	GCF(認証団体)認証を取得(業界をリード)	2010年4月	重要なチップセットベンダーでの受注を足がかりに、端末ベンダーへ展開
韓国 Samsungとの協力関係「NGMN Industry Conference & Exhibition2010」(中国)	サムスン社のTD-LTEデバイスとの接続デモンストレーションを実施	2010年6月	サムスン社とFDD/TDD LTE両方で協調関係を継続し、ビジネス拡大
中国 China Mobile 向けソリューション (TD-SCDMA)	プロトコル認証システムの受注獲得 (TD-SCDMA対応はアンリツのみ)	2010年6月	TD-SCDMAからTD-LTEへ継続的にサポートし、中国ビジネスを拡大 納入している端末ベンダーへのビジネス拡大
大手通信機器ベンダー向けソリューション	基地局製造向けビジネスの受注獲得	2010年6月	継続サポートによる製造向けビジネスの拡大

Discover What's Possible™

Anritsu

14

### お客様との具体的な成果、ソリューション

LTEというモバイルアクセスでのビジネス展開とともに、モバイルバックホールやコアネットワークに対するソリューションを展開し、機器については、開発から製造、保守まで、サービス系については、インターオペラビリティテストから、さらに発展したソリューションまで、トータルソリューションを継続してサポートし、安定したビジネスを実現してまいります。

# Anritsu

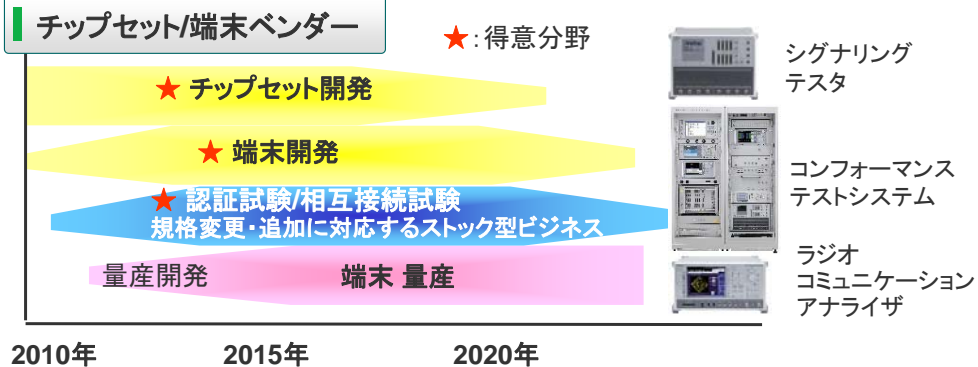
Discover What's Possible™

---

Discover What's Possible™

**Anritsu**  
15

## Appendix: チップセット/端末の需要とソリューション



**強み:** チップセット、携帯端末の開発/認証用計測ソリューション  
(3G開発用・認証用計測:グローバルシェア70%)

**取り組み:** 携帯端末と基地局の認証を試験するコンフォーマンステストを、  
有力なチップセットベンダーに採用いただくことにより、そのチップセットを  
使用する端末ベンダーまで計測ビジネスを拡大。

Discover What's Possible™

Anritsu

16



## Appendix: 通信事業者(無線)の需要とソリューション

### 通信事業者(無線)

★:得意分野

★ 認証試験/相互接続試験  
規格変更・追加に対応するストック型ビジネス

★ 基地局 建設・保守



パフォーマンス  
テストシステム



基地局アナライザ  
エリアテスタ

2010年

2015年

2020年

LTEの導入時期は地域・国により大きな差があります。

**強み:** 相互接続試験ソリューション(3携帯の相互接続試験:グローバルシェア70%)

建設・保守用計測ソリューション(ハンドヘルド):グローバルシェア70%

**取り組み:** 種々の通信方式の携帯端末や基地局との接続性を試験するインターオペラビリティテストは、重要なオペレータに採用いただくことにより、端末/チップセットベンダーまで計測ビジネスを拡大。

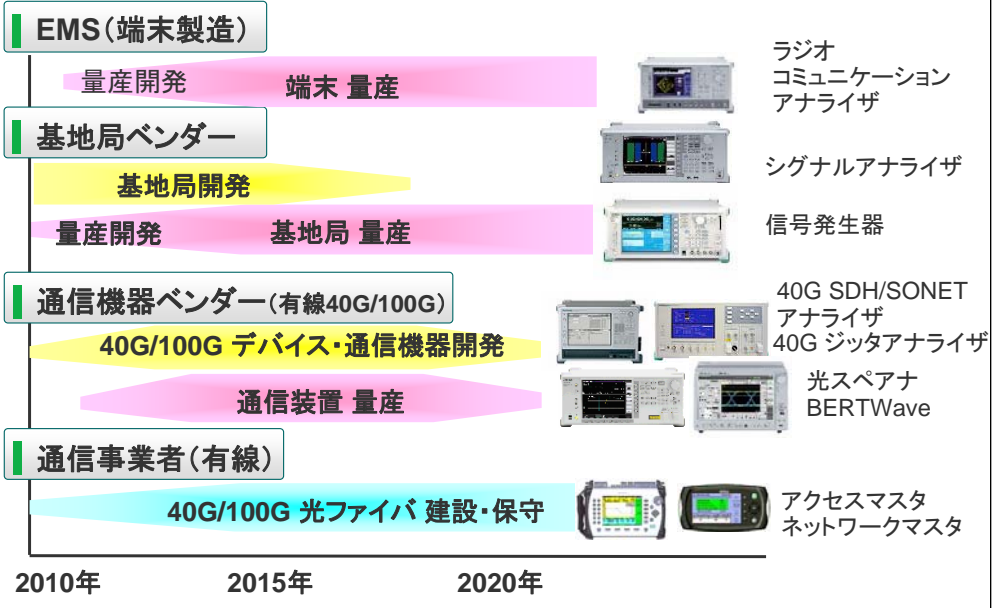
ハンドヘルド計測器は、高いシェアを維持している競争優位と、顧客との良好な関係を継続・向上しながらビジネス拡大。

Discover What's Possible™

Anritsu

17

# Appendix: その他の需要とソリューション



Discover What's Possible™

